



## バスラ日誌（6月26日）-153号-

- 1 日本隊の資材・車両等の後送が始まったというニュースが流れ、こちらでも多くの方から「いよいよ始まったね。」という言葉をかけて頂いている。前から運んでいたよとは言えないので『ありがとう。やっと帰国の日をカウントダウンできます。』と答えている。師団が、日本隊の撤収を支援するために多くのことを実施してくれていることに對し、感謝の気持ちを伝えることが我々LOの任務の1つと思っている。  
また、師団が日本隊のためにどのような支援をしてくれたか、これからどのような支援をしてくれるのかについて、さらには師団の雰囲気、師団が何を求めているかを伝えることもLOの責任と考えている。ここに書くことができるストレスの情報をこれまでも紹介してきたし、これからも伝えねばならぬと思っている。  
日本隊撤収時の空輸支援は、最低限の要請数（英軍ヘリのみによる移動）についてはクリアしている。  
また、本日、日本隊の後送民間契約コンボイの輸送計画を師団に報告すれば、アイスター（Intelligence, Surveillance, Target-Acquisition and Reconnaissance）の情報収集対象として、移動状況を監視してくれるという申し出も受けた。キャンプ・サマワの行く末についても、師団はこれ以上ない後押しをしている。  
( )
- 2 昨日のバスラ基地に対するIDF攻撃に関する情報は訂正された。弾種不明3発。弾着地点修正、司令部北側300m、南側1Km及び1.5Km。昨日は久しぶりに砲弾が頭上を通過する時の飛翔音、ふざけた笛の音に似たビューという音を聞いた。蛙の生息地には着弾していなかった。  
( )
- 3 本日快晴。バスラ4名、極めて健康。  
( ) ( ) ( ) ( )